

隊西岡少尉以下約五十名ヲ以テ神山島ヲ奇襲セシム西岡挺進奇襲隊ハ刺母ヲ利用シ警戒至嚴ナル海面ヲ巧ニ突破シテ攻惠ニ成功爾後三日由同島ノ敵砲兵ヲ沈黙セシメタリ右三隊應ニ海上挺進ヲ行ハシ六戰隊ハ大舉ヲ嘉手取納迫地ノ敵船団ヲ攻惠セシ各所ニ敵ノ反惠ヲ受ケ其ノ成果大ナラザリキ

四月十日

敵ノ我が立陣地帯ニ對シテ攻惠ハ全線著ク緩キセリ敵約天隊ハ三ノ津堅島ニ上陸ス軍ハ同島三六五軍ニ據リ抗戰中ノ我が守備隊ニ對シテ勝連半島ヲ經テ背後ヨリ敵線ヲ突破シ軍主力ニ合スル如ク命令セリ數日後守備隊長以下千數名所命ノ如ク帰還セリ軍ハ四月八日、攻勢ヲ中止セシ大本營ノ出惠要望ニ抗シ難ク申致約ニ有力ナル一部ヲ以テ夜襲ヲ行ハシ決シ概要ヲ如ク部署セリ軍ハ十二日夜有力ナル一部ヲ以テ右面ノ敵ヲ全線ニ亘リ攻惠シ之ヲ紛戰ニ導キテ戰果ヲ拡大シ島袋東西ノ線ニ進出ス

兵力部署

一歩兵第三三聯隊(軍中備屯)小祿飛行場正面ヨリ抽出セラレ首里東北地区ニ集結第六三師團長ノ指揮下ニ入ルル其ノ主力ハ二六大隊ヲ以テ宜野灣街道以東第六三師團第一線ノ後方近ク攻惠ヲ準備シ十二日没ト共ニ攻惠ヲ開始シ島袋東西ノ線ニ進出ス

二第六三師團ハ第一線守備隊ヲ以テ現陸正面陣地ヲ確保スルト共ニ新銳歩兵約三大隊ヲ以テ宜野灣街道以西ノ敵ニ對シテ攻惠ヲ準備シ十二日没ト共ニ攻惠ヲ開始シ島袋北各ノ線ニ進出ス

師團ノ兵力部署ノ概要ヲ如ク

歩兵第六十三旅團

攻惠部隊

長獨立歩兵第三三大隊長 山本少佐

獨立歩兵第三三大隊(一部欠)

那霸海岸地区ヨリ抽出轉用ス

獨立歩兵第二百七十三大隊(旅團予備)

宜野湾街道ニ沿フ地区ヲ突進ス

歩兵第六十四旅團

攻惠部隊

独立歩兵第三百七十三大隊 (旅團予備)

西海岸ニ沿フ地区ヲ突進ス

三軍砲兵隊

十一日没ト共ニ射惠開始專ラ敵後方地帯ノ擾乱及交通

遮断ニ任ズ

機密作戰日誌

幕僚會議ニ於テ高級參謀ハ斯ル大規模ノ夜襲ハ絶体反対ニテ
本夜襲ノ必敗ニ終ルヘキヲ力説セルモ採用セラレサキ

軍司令官參謀長ハ四月八日攻勢中止ノ旨保テ成敗未定ヲ懸
ニ軍ノ名譽ニ堪ヘテ遮断ニ盡シテ攻惠ヲ強行セシムルカニ見ヘタリ

本夜襲部署ニ於テ特ニ著眼セルハ夜間縱深深ク敵線内ニ侵入
拂曉迄ニ廣地域ニ亘リ紛戦状態ヲ形成シ以テ敵ヲ攪亂ニ依ル

物量戦法ヲ駆使セシメザラントスルニ在リシモ古今東西ノ夜戦ノ旨
茲ニ我が將兵ノ素質、錯雜セル地形、攻惠目標タル敵ノ態勢が
終始浮動シアルト攻惠準備日數、短少ナルヲ等ヨリ判断シ

理論的紛戦状態ヲ形成シ且之ヲ利用シテ戰果ノ拡大ヲ圖ラントス
實ニ至難ト謂フベシ

四月十一日
軍ハ和守慶、一五五高地、一四一高地、我如古、嘉敷北側地
陳ノ線ヲ保持シタリ

四月十二日
諸隊ハ予定ノ如ク夜襲ヲ實行ス其ノ成果尤、如シ

歩兵第三二聯隊
敵情不明、地形未熟、準備不十分等ノ爲ニ先頭部隊、攻惠
先ズ失敗ニ歸シ聯隊主力ハ戦斗加入ニ至ラズシテ終ル

高級參謀ハ攻惠失敗明瞭ナルニ依リ当初ヨリ攻惠ノ終未ス

如クナリ損害ノ極力少クシテヲ希望セリ
歩兵第六十三旅團

攻夷隊長 山本少佐、勇敢適切ニ戰鬥指揮ニ依リ約千米ノ
縦深ニ亘リ敵線ヲ突破セルモ十三日拂曉後孤立無援ノ状態ニ
陥リ殆二分ニ達スル損害ヲ受ケ同夜主陣地内ニ後退セリ

歩兵第六十四旅團

独立歩兵第二百七十三大隊ハ大隊長以下殆死傷ニテ潰滅的
損害ヲ受ケ夜籠表ハ完全ニ失敗セリ

以上ノ如ク軍ノ名譽維持上充足セル無理ナル夜籠ハ第六十二師団、
新鋭歩兵三ヶ大隊ヲ犠牲トシ且歩兵第三十二聯隊ハ損害大
ラザリト雖モ緒戦ヨリ奔命ニ被レタルノ感アリテ第六十二第三
兩兵団更ニ軍潮後ノ戰鬥指導上ノ不利益甚カザルヲ

四月十三日

軍主力方面ニ於テハ敵ノ行動活発ナラス

軍ハ夜籠ノ成果ニ鑑ミ之ガ中止ヲ命ジ第一線兵団ハ夜籠部隊ノ撤
退掌握戰線ノ整理等ニ任セリ

本部半島ハ重嶽附近ニ據ル國頭支隊主力ハ優勢ナル敵ノ爲
包圍攻夷ヲ受ケ至リ敢斗中ナリ

四月十四日乃至十八日

敵ハ依然大規模ニ攻夷ヲ準備中ナリ、如ク彼我戰線大ナル変化ナシ
然レモ局所的ニ敵ハ戰車ヲ中絶トシテ隨処ニ侵入ヲ兼シ連日激
烈ナル小戰鬥ヲ各処ニ惹起セリ

軍ハ第六十二師団ノ損害著シク増大シ其ノ負傷漸次過重トナルト共ニ
津堅島ヲ奪取シテ中城灣ニ侵入セル敵ノ行動漸次活発トナリ且那有
沿岸ニ對シテ上陸企圖樂觀ヲ許サルモヤシ鑑ミ四月十五日第三十四師
団ノ一部歩兵第九聯隊ノ一大隊野砲兵第四十二聯隊ノ一大隊基幹
ヲ玉不林与那原正面ニ推進シ且同地附近ニ在リ戰車第三聯
隊ヲ同一指揮下ニ入ラシメ以テ敵ノ該正面上陸ニ際シテハ機ヲ使
セズ師団全力ヲ之ニ増援シテ及東ニ得ル如ク計畫準備セシムル

トコアリタリ

十五日 国頭支隊長ヨリ八重岳附近ノ陣地ヲ撤シ名護東北ニ移
岳ニ転進シ支隊ノ才ニ次任務タル遊軍戦ニ務ル旨ノ報告アリ

又十六日 国頭支隊ノ一部タル伊江島守備隊ヨリ敵上陸ノ報告アリ
爾後同島守備隊ト通信断絶シ状況不明トナル

其ノ四、敵ノ本格的攻襲ヨリ軍ノ攻勢迄 (自四月十九日
至五月五日)

四月十九日

敵ハ朝来 総攻襲ヲ開始ス
才六十二師団及軍砲兵隊ノ相協同シテ善戦ス

四月二十日

敵攻襲ノ重点ハ西海岸方面ニ在リ
二十日夕ニ至ルに彼我ノ戦線ハ大ニ変化ナキモ敵ハ我ノ龍翼伊祖四島
地港川附近ニ進出ス

牧港ヨリ伊祖ヲ経テ安茶ニ至ル地域ハ敵機軍部隊ノ侵入ニ容易
ル地形上ノ弱矣ナリしか才六十二師団及其ノ隷下歩兵才六十四旅団

四月八日 攻勢全十二日ノ夜龍表迄ニ引續ク中央正面ノ激斗ニ基因ニテ

指揮ノ余裕ヲ失ヒ且予備兵力ヲ消耗セルト依然城周ヨリ南飛行場
面ニ直ル海面防線ニ牽制地ヲ其龍翼ノ防線配備カ十分陸正
面ニ転換シケラサル間隙ニ乘セラルルノ嫌ヒアリ

四月二十日

第六十二師団ハ敵ノ猛攻ニ對シ克ク一四一高地ニ我如古ノ線ヲ確保シ
敵侵入都度之ヲ退退ニヤリ

善戦ニ於テ善戦中ナリシ独立歩兵才三三大隊ハ此ノ夜同地
放棄シ安被茶ニ後退ス

歩兵才十四旅団ハ独立歩兵才十五大隊全才三十一大隊ヲ以テ
砲才一聯隊主力ト協同シ夜龍表ニ依リ伊祖四八高地線ニ進出セル
全面的奪回ニ至ラズ敵ハ海陸ヨリ盛ニ牧港附近ニ兵力ヲ増強中ナリ

四月二十一日

全線激斗ヲ續行ス

右翼南上原高地方面ニ於テハ歩兵才六十三旅団ノ主力(独立歩兵
才十一才十三才十四大隊)ヲ指揮下ニ入レテ歩兵才三三聯隊才三大隊

又伊祖正面ニ於テ其ノ兵力六十四旅団主力(独立歩兵中隊、歩兵五中隊、十五大隊)指揮下ニ於テ其ノ兵力三三聯隊(大隊主力)夫々敵

斗中ニモ西方面ノ危機刻々増大ス
以上ノ如キ情勢ニ於テ軍ハ中隊旅団又獨立混成中隊四旅団ヲ北

理由

一、敵ハ現在ノ攻要ヲ續行シ首里東西ノ線ニ進出シ得ル地形上我が軍
死命ヲ制シ其ノ欲スル飛行場群ヲ確實ニ占領使用シ得ルヲ以テ
危険ナル新上陸作戰ヲ我が背後ニ行フトナラシ其ノ得意トスル巨上
十ノ物量ヲ思フカ怪ニ驅使シ現在ノ攻要ヲ專心續行スルハ(案七六)
然レドモ略々敵ガ認めル如ク我が軍ノ頑強ナル抵抗ヲ排除シツテ首里再
西ノ線ニ進出スルニ尚多ク日数ト多大ノ犠牲ヲ要スルト明瞭ナル以
我が軍ガ北方戰線ノ急ニ忘ルル爲逐次主力ヲ之ニ投入シ終ニ頂
我ノ背後ニ新上陸ヲ實施セバ其ノ上陸ハ安全容易ニシ然モ戰斗

終結ハ迅速ナルベク敵ノ爲ニハ更ニ有利ナル策案ナリト考察セラル
狀況ヲ判断スルニ敵ハ依然ト前案ニ固執スルヲ觀察セラルモ或ハ
後案ニ出デテ局面ノ打開ヲ案スルヤモ計ラズ其ノ行動ハ一敵ノ意
志如何ニ依ルモ之ヲ予斷ヲ許サズ我トシテハ何レモ対応シ得ル
如ク準備シアラザルベカラズ

二、目下中隊六師団ト交戦シラマシ敵ハ分中四軍団ノ三師団ニシテ尚
北方國頭地区ニ作戰シラマシ敵ハ海兵中隊三軍団ノ三師団更ニ此ノ
兩者ノ中間中頭地区ニ一三師団控置セラレタリ、如ク遠カラズ是等
兵力ヲ軍主力方面ニ投入セラズモト覚悟セザルベカラズ

斯カク優勢執力敵ニ對シ軍ハ軍中隊六師団ノ三師団ヲ以テ對抗スル能
ハカ既ニ同師団ハ今自治ノ戦斗ニ於テ二分以上ノ兵力ヲ消耗シ且
驚歎スルノ頑強ヲ以テ善戰シラマシ且敵ニ地歩ヲ讓リテ然モ
若シ軍ガ我が背後ニ對テ新上陸ヲ恣ルニ余リ軍主力ヲ依然ト海正
面ニ存置シ中隊六師団ノ正面ヲ者ミルニシテナカラズ其ノ崩壊危

機ハ急速ニ進取スルベシニ免テ追テ一免ヲ得ザル結果トナシベシ令
一、敵ノ状況ハ軍ノ一大決心ヲ爲スル時ナリ

三、茲ニ於テ軍ハ英斷主力ヲ北方陸正面ニ投入シ敵ノ追首里戦線ヲ
確保スルニ決シ北首後海正面ニ極力我カ部署ノ変更ヲ秘匿シ敵ニ
乘也如ク勉ムル共ニ万一敵カ新上陸ヲ企ツル場合ニ於テハ全戦
線ヲ收縮シ首里ヲ中心トシ河形複廓陣地ニ據ル下セリ

一、方針

軍ハ主力ヲ北方陸正面ニ戦線ニ投入シ戰略持久作戰ヲ續行ス
敵ニシテ若シ軍北首後ニ對シ新上陸攻島シ来タル場合ハ予メ
準備セリ首里中心ノ複廓陣地ニ兵力ヲ集約シ最後一兵迄
敢斗ス

二、部署ノ概要

一、第三十四師團
右第一線兵團トシテ我射小波津幸地ノ前田ノ線ヲ占領ス
現在ハ六十二師團右翼ノ保持シテ上原附近ノ高地帯ニ早晩敵

年ニ入ルヲ予期ス

二、第六十二師團

極力現在線ノ保持ニ勉メ止ムヲ得ザルニ至レバ右第一線兵團トシテ
仲間伊祖城間ノ線ヲ確保ス

三、獨立混成第四十四旅團

第三十四師團ノ轉進ニ伴ヒ首里西側天久台ヨリ那霸海岸
ニ亘ル線ヲ占領シ六十二師團ノ後方ニシテ線陣地帯ヲ構成ス

四、海軍陸戰隊

依然小波飛行場正面ヲ守備ス

五、軍砲兵隊

第三十四師團及混成旅團ノ砲兵ヲ統指揮シ依然今線各兵
團ノ防禦戰斗ニ協同ス

六、島尻警備隊

兵站地区司令官ハ特設部隊ヲ第三十四師團及獨立混成旅
團ノ殘置部隊ヲ併セ指揮シ島尻警備隊トナリ軍ノ北首後

海正面ノ整備ニ任ジ極力我ガ企圖ヲ欺騙シ敵ノ新上陸ニ対シテハ
歩々抵抗シテ軍主力ニ合ス

機密作戰日誌

軍爾後ノ作戰方針トシテハ原案ハ外ニ左記策案アリシモ軍參
謀長ノ原案支持強ク本案ハ採用セラザリキ

左記

首里戰線ハ依然第六十三師團ヲシテ擔任セシメ狀況止ヲ得サレ
首里嶺廓陣地ニ據ラシメ才二十四師團ハ与座八重瀬西高地ヲ
據ル上ニ嘉屋半島陣地獨立混成旅團ハ系敷高地ヲ據
莫上ル知念半島陣地ニ據リ三據莫防禦ヲ實行ス
軍砲兵隊其他ノ軍直轄部隊ハ適宜分割シテ右三兵團ニ配屬ス
四月二十四日乃至二十六日
第一線ノ激斗續行一般戰線大ニ變化ナキモ上原高地帶及牧港
正面ノ敵ノ滲透著クシテ危機愈々切迫ス

軍ハ第六十二師團ガ戰線保持爲獨立歩兵才二百七十三才十五
才二十三大隊ヲ逐次北方ニ抽出転用セシ爲虛隙ヲ生ジタル首里
天久那霸方面ヲ急速ニ強化スル爲ニ二十五日獨立混成才十五
聯隊才一大隊及獨立才三大隊ヲ混成旅團ヨリ抽出夫々天久
國場ニ前進セシメ一時才六十二師團長ノ指揮下ニ入ラシメタリ

四月二十七日

第六十四師團ハ所命始ク我射小波津幸地及前田附近
ノ線ニ展開ヲ完了セリ

第六十三師團ハ南上原ノ高地帶ニ於テ死斗中ナリシ獨立歩
兵才十一才十二才十四大隊等ヲ此夜仲間前田附近ニ徹退セシメ
西師團ノ作戰地境ハ首里城趾(合点)大石仲間各東端宜野
灣西端ノ線トセラルル新ニ戰線ニ加入セシ才二十四師團特其
左翼歩兵才三十一聯隊ノ防禦不能勢確立ス追同師團ノ作戰地
境內ニ在ル才六十二師團ノ諸部隊(歩兵才三十三旅團主力)ハ別命

已迄現任務ヲ續行スル如ク命令セラレアリ

独立混成歩隊四旅團ハ軍命令ニ基キ首里西方地区ニ概テ進出ヲ免
了ス同旅團ノ進出ニ伴ヒ軍及旅團ノ配置ノ概要ヲ如シ

第三歩兵隊第三大隊

依然現在地(雲森附近)ヲ守備シ且經中三四師團長指揮下ニ入ル

独立速射砲中七大隊ノ一部配屬如故

知念支隊

重砲兵第七聯隊、船舶工兵中三聯隊、独立中三九大隊ハ重

砲兵中七聯隊長之ヲ併セ指揮シ知念支隊トナリ独立混成旅團

首里西方地区ニ転進後其ノ日作戦地ニ守備ニ任ズ

混成旅團展開ノ概要如シ

旅團司令部 首里軍司令部(一特設名ニ位置セリ)

右地区隊(独立混成中十五聯隊主力、独立速射砲七大隊主力)

天久台占領

左地区隊(特設中五聯隊主力)

那霸地区占領

南地区隊(船舶工兵中三六聯隊)

長堂附近占領

旅團砲兵隊

國場附近陣地占領

四月二十八日

第三四師團方面

南上原高地帯ヲ占領セル敵ハ中三四師團ノ新陣地線ニ近接シ各所

小戦ヲ惹起ス

中城灣岸ニ沿ヒ我謝方面ニ進出セントスル敵ハ知念支隊ノ側防砲

兵ニ脅威セシ行動ヲ躊躇ナラズ

前田高地ハ前中師團ニ反シ敵ニ占領セラレ南上原附近ヨリ後退セ

独立歩兵中三大隊其他ノ部隊ハ同高地我カ方斜面ノ洞窟

陣地内ニ圧迫セラル前田仲岡高地ハ首里山麓ニ至リ間我カ士

陣地帯内全域ヲ瞰制スルノミナラス我ハ同高地ノ爲妨害セリテ
敵線内部ヲ觀測シ能ハザル要地ナリ同高地ノ確保ハ軍全陣地
ノ爲ノミナラス第一線西兵團及軍砲兵隊ノ爲要ナリ依ツテ軍
西兵團ニ命ジ相協力シテ同高地ヲ確保スル如ク督励ス第西
兵團新銳歩兵ヲ二聯隊ヲシテ此ノ任ニ服セリタルモ地形錯雜狀
不明加ヒニ熾烈ナル敵砲撃ヲ避ケテ夜間行動ヲ取ルニ爲同聯
隊ノ攻東ハ至難ニシテ機ニ合セザルモアリ

第六十三師團

右翼歩兵第六十三旅團ハ歩兵ヲ二聯隊ノ進出ニ伴ヒ逐次其ノ
掩護下ニ兵力ヲ集結整理ノ態勢ニ移行シツアリ
左翼歩兵第六十四旅團ハ敵ノ滲透急速ニシテ仲間安政茶
屋富田祖三ニ高地城内ノ線ヲ辛クシテ保持シ激斗中ナリ
杜立混成第四十四旅團
逐次新陣地ニ於テ態勢ヲ整頓シアリ

四月二十九日

軍ハ戰略持久ノ方針ヲ再ビ放擲シ五月四日攻勢ヲ轉ズニ決ス

機密作戰日誌

四月一日敵ノ上陸以來我が軍ハ其ノ力戰奮斗ニ拘ル平均日々百米
内外陣地ヲ奪食セリシアリ戰局前途軍ノ運命ニ對シ司令部首
腦部ノ憂色頗ル深刻トナリ
過去一ヶ月間、戰鬥ニ於テ約二料ノ縱深ニ亘リ主陣地帯ヲ奪取
セシ又又第六十三師團ノ戦力ニ分一以下ニ減少セリトハ嚴々事實ナリ
然レドモ我モ亦敵ニ甚大ナル損害ヲ与ヘ敵主力タル第六十四師團
杜立混成第四十四旅團軍砲兵隊其ノ他後方諸部隊ハ未ダ無傷ナリ
太平洋戰開始以來未ダ曾テ餘裕ヲ得々一ヶ月ニ亘リ組織的
戰鬥ヲ繼續シ然モ今高嚴トシテ主力ヲ保有シテ如キ戰例
何処ニアリヤ自信力ヲ増大セヨト憂フルナレ戰ハハ今後ニ在リト
激励スルモ悲觀的空氣去ルベクモアラス軍參謀長ハ現状ヲ以テ

推移せし方軍ノ戦力ハ熾燭ノ如ク消磨シ軍ノ運命盡クハキテ
明白ナリ軍ノ攻勢戦力ヲ保有スル時期ニ攻勢ヲ取り運命打
倒ヲ策セサルハラストノ意見ヲ提案セシ各参謀熱烈ニ之ヲ
支持ス

独リ高級参謀ハ從來ノ作戰方針ヲ堅持シ極力攻勢案ニ反対ス
主ナル理由左ノ如シ

1. 敵消耗ハ勿論大ナルモ敵戦力ハ我ニ比シ依然圧倒的ニ優勢ナリ
古今東西特ニ近代戦ニ於テ攻軍ハ圧倒的優勢ヲ保持セザレバ奏
効セズト明白ナル戦ニ原則ニテ兵家ノ常識ナリ然レモ今方勢
ナシ我軍ガ絶体優勢ナル敵ニ対シ攻勢ヲ取ルガ如キハ無暴ニ
甚シク必敗明瞭ナリ

2. 南上原ノ高地ガ我ガ有ニ在リシ南高ノ高地形的ニ局地的成功ノ
希望主キ事ニモアラザレバ之ガ敵ノ領有ニ歸シタル今日先ズ同高地
帯ニ攻勢ヲ取ラザルハカラザル現状ニ於テ攻勢失敗ニ愈々確定的ナリ

3. 軍ハ自ラノ最後ノ運命一如何モカクモ全滅ハ必至ナリ一ヲ冷静ニ
認得シ飽ク迄戰略持久ノ方針ヲ逸スルコトナク作戰ヲ繼續スルキ
攻勢ニ依リ戦勝ヲ夢ミガ如キハ所謂痴人ノ夢ニ屬スル事ニテ
又自ラノ運命ニ堪ヘ其ノ任務ヲ最善ニ達成セトスル意志カニ
缺如スルモノト謂ハザルベカラズ

攻勢ヲ取ルガ失敗ハ必定ノ失敗スルニ戰略持久モ其迄本土決戦ノ爲
持久日數モ短少トナル更ニハ敵ニ与ル損害ハ甚クテ我ハ幾方
ノ將兵ヲ一擧ニシテ攻勢ノ犠牲トシ實質的ニ所謂徒死セシム事
ニテ深思三者ノ要アリ

高級参謀ノ必死的反對論ニ對シ軍参謀長ハ平素ノ強硬
断平氣性格ニ似ズ高級参謀ノ手ヲ握リ熱淚ト共ニ攻勢案同
意セシコトヲ懇請セシ軍司令官モ亦平素一言モ尅セザル性格
トハ反對ニ言フ所マシテ高級参謀ヲ叱責セラル前ニ於テ攻勢
ハ軍主腦部一致ノ形式ヲ以テ採用セラレタリ
軍司令官ノ決心ニ基テ攻勢部署ノ概要尤ノ如シ

方針

軍八總力ヲ結集シ五月四日午後三時ヲ以テ攻勢ヲ開始シ重ハ兵ヲ右翼
中千四師團正面ニ保持シツ、突進シ善夫間東西ノ線以南ニテ
敵主力ヲ捕提專滅ス

兵團部署ノ概要

一 左逆上陸隊

船舶工兵ヲ千六聯隊
海上推進部ヲ千六、千八、千九戰隊、各一部
以上總員約七百名

大發①ノ剽舟ニ依リ主力部隊ヲ千潮時ヲ利用シテ礮礮集
上ヲ徒歩前進ス一部ノ隊ヲ以テ五月三日那霸沿岸ノ岳山
附近沿岸敵後方地帯ニ逆上陸シ敵ノ砲兵陣地高等
司令部等ヲ急襲シ軍主力ノ攻勢ヲ容易ナラシム
二 右逆上陸隊
船舶工兵ヲ千三聯隊(聯隊長及一部攻襲行動不参加)

海上推進部ヲ千七戰隊、一部
以上總員約五百

- 一 左逆上陸隊ト同要領ニ依リ五月三日夜津霸附近ニ逆上陸シ
軍主力攻勢ヲ容易ナラシム
 - 二 第六十二師團ハ極力現陣地特ニ前田仲間高地ヲ保持シテ攻勢
ノ支撐トシ軍主力ノ攻勢進展ニ伴ヒ之ニ連繫シテ攻勢斷不
 - 三 第三十四師團ハ五月四日、五日約三十分間攻襲準備射撃ヲ
實施シ之ニ後攻襲ヲ開始シ先カ南上原高地ヲ攻略シテ續テ
善夫間東西ノ線ニ進出ス
 - 四 獨立混成中隊旅團ハ四月三日夜現陣地ヨリ首里東北地区ニ
轉進シ第三十四師團カ南上原高地ニ進出スヤ機ヲ逸ス
 - 五 同師團ト千六十二師團ノ中間地区ヲ超越大山方向ニ突進シ先カ
千六十二師團右翼方面ニ沿テ突入セシ敵海兵軍團ノ退路ヲ
遮斷シ千六十二師團ト協同シテ之ヲ專滅ス
- 旅團ノ現作戰地域ノ防禦ハ千六十二師團長ノ擔任ス

六、軍攻兵隊ハ五月四日五五〇ヨリ約三分圍主トシテ才三西師團
正面敵才線ニ対シ攻束準備射束ヲ實施シ爾後先ズ
主力ヲ以テ同師團ノ攻束ニ協同ス

七、海軍陸戰隊ハ精銳四大隊ヲ編成シ隨時戦線ニ加入シ
得ル如ク現陣地ニ於テ待機ス
陸戰隊司令部ハ首里軍司令部洞窟ニ推進ス

四月三十日

各兵団部隊ハ夫々軍ノ企図ニ基テ攻勢ヲ準備ス
第二十四師團正面ニ於テハ敵ノ一部吳屋ノ崩長ニ進出ス
前田高地ハ第三十四師團ノ歩兵才三三聯隊ノ一大隊才六十三師團
ノ独立歩兵才十二大隊等高地中腹附近ニ在ル洞窟ニ
據リ山上ノ敵ト交戦中ナリ
才六十三師團正面ニ於テハ城周附近ニ敵才ニ落テ至大戦線ハ仲間
宇波茶澤峠北側高地内周勢理客ノ線ニ在リ其ノ有力ナル部
ハ敵線内洞窟陣地ニ分散殘存シ依然抵抗ヲ續ケアリ

五月一日

第三十四師團ハ陣地ニ近接ス敵ニ痛害ヲ加ヘ之ヲ甚退セアリ
第六十三師團ハ全線死斗中ナリ

五月三日

左述上陸隊ハ船舶工兵才六聯隊長幸先陣頭ニ立テテ
地進ニ攻束概不成功セシ、如ク傍受電話ニ依テ敵ハ友軍
相害シ相當混亂ニナルト明瞭ナリ
右述上陸隊ハ上陸ニ先カテ甚大ナル損害ヲ受ケ先モ其ノ一部ハ
上陸ニ成功シ戦斗中ナルヲ、如シ
混成旅團ノ夜間機動ハ敵ノ砲臺下約七名ノ死傷者ヲ發
見概不計畫重ノ如ク進捗シツ、アリ

五月四日

第三十四師團ハ軍攻兵隊ト協同シ予定ノ如ク攻束ヲ開始シ〇五三〇
崩長東北地区ニ突入セリ即チ
右翼歩兵才八十九聯隊ノ攻束ハ初期比較的順調ニ進捗シト

原高地中腹迄進出得る間モテ敵陸海空ノ集中火ヲ受ケ
一與テ甚大ナル損害(三分以上)ヲ蒙リ四日正午頃以後攻害全
頓挫シ大規模ニ利用セル煙幕ノ消散スル共ニ愈々損害ヲ増加
スルニシテ中歩兵才三聯隊ハ既ニ兵力著減シテアリシニテ
又師団攻害部署變更ノ關係モテ攻害成果不見ルニテ
右翼歩兵才三聯隊主力ハ敵情地形不明ノ裡亂戰中ノ中六五
右翼部隊ニ混入シ行動意ノ如クナラズ前田高地ノ頂上ヲ完全占領
スルニ至ラズ只同聯隊ノ伊東大隊(獨立才三六大隊屬)ハ宜野連
街道東側ヲ巧ニ突入シ相原北側高地ヲ占領シテ如キ連絡
杜絶ニシテ其ノ狀況不明ナリ
戰車才三七聯隊モ亦前田東側地区ニ突進セシ其ノ狀況當時
判明スルニ至ラズ獨立混成旅団ハ突入ノ機未ダ熟セズ依然
ケ岳附近ニ控置ス此日初夜明リ我カ砲兵隊ノ活動猛烈ニ
真ニ攻守トシテ異ニセル感アリ首里山上ヨリ戰線ヲ望メハ大
規模ニ使用セル我カ煙幕全戰場ヲ掩ヒ彼我カ砲爆轟々トシテ

天地ヲ震撼シ光景眞ニ壯絶ヲ極ム此ノ間才二十四師団特ニ其ノ右
翼部隊ノ攻害成功ノ快報頻リ至リ軍司令部内朗色満ツ
然レトモ正午頃以後前述ノ如キ狀況逐次判明ニ一方戰場ハ既
再ニ敵砲爆ノ独リ舞臺ト化スルアリテ朗色ハ憂色ト變ニ至リ

五月五日

軍ハ攻害ヲ續行スルモ損害刻々増加スルニシテ攻害毫モ進展セズ
斯ル狀況ニ於テ更ニ混成旅団ヲ投入スルモ勝算ナキコト明瞭ナリ
以テ一八〇攻害ヲ中止シテ日陣地帯ニ復帰シ敵ニ最後ノ出血ヲ
強要スルニ決セリ

機密作戰日誌

一本攻害ニ於ケル戰鬥法上ノ特色ハ軍從來ノ思想ニ貫シ縱深ニ
耳リ紛戰地帯ヲ作爲シ晝間ニ於ケル砲爆ヲ避ケ彼我互角ノ
戰鬥ヲ爲サントスルニ在リ是ガ爲ニ左右逆上陸隊ヲ以テ敵ノ背後
ヲ擾亂スルノ外尤ノ如キ戰法ニ出テタリ
攻害前夜敵深約二料ノ縱深ニ亘リ多數ノ挺進斬込隊ヲ